



CLOSE ENCOUNTERS
WITH DOCTORS

医師との遭遇

— ある老MRの遺言 —

Kanehara Nobuhiko

金原 信彦

4章 | 僭越ながら

.....

155

高品質であるという点と

理念経営とは

最後に

180 169 156

付録 | 症例報告

.....

185

1章 | ぼくの好きな先生

老人と海

思わぬところで偶然、知り合いに出くわすことは誰にでもあると思います。

私はそういった偶然が他の人より多いようです。だから、悪いことは出来ません。

ホテルのロビーで知っている先生にバッタリと会うなんてことはしよっちゅうですが、この業界にいればそれほど不思議なことではありません。学会や研究会、講演会などの会場にホテルを使うのは普通のことだからです。

そうではなく熱海の駅前や、山深い温泉に向かう路線バスの中、軽井沢のアウトレットモール、明け方の高田馬場駅など、変わった場所での遭遇が多いのです。

東京都板橋区の富士見街道（通称、S B通り）にある豊島工業高校前のバス停で、千葉県の卓球クラブ・皐月会のメンバーである高橋さんにバッタリ出合いお互い驚いたり、江東試験場に免許の更新に行く途中で、やはり皐月会の横山さんとすれ違ったり。おばあちゃんの原宿で有名な巣鴨駅前の交差点で、20年以上会っていないかった大学の同級生山口くんを見つけたりなどなど。

タイへ行く飛行機の中では、後ろの座席のご夫婦の大阪弁の会話がとにかくにぎやか。テンションが高く喋りどおし。初めての海外旅行かなんかで興奮しているのだろう、と思うと文句も言

えませんでした。バンコクの空港に到着し、荷物を下ろそうと立ち上がったとき、後ろの座席のご夫婦の旦那さんの顔が見えました。

「中浜さん…」

「あれ…？ 金原さん？」

南関東支店の人でした。彼らはバンコクに滞在すること。私たちはサムイ島へ向かうため空港で別れました。

とにかく、こんな調子で良く知り合いに出くわします。

ニューヨークのソーホーのレストランで、オノ・ヨーコさんとシヨン君と一緒にになったこともありました。これは、お見かけしただけですが、かなり感動しました。

挙げていくときがありませんが、最も印象に残っているのは1999年8月インドネシア・バリ島での遭遇です。家族旅行でしたが、当時東京支店・学術課で私たちMRのサポートをしてくれていた上田春美さんのお勧めで、シエラトンラグーナビーチリゾート（現在：ザラグーナリゾート & スパ・ヌサドゥア）を予約しました。部屋のデッキからラグーンプールに出られるメゾネットタイプで部屋数もそれほど多くない、ちよつとリッチなホテルでした。上田さんは割安に宿泊できるし、ポイントも貯まるからとシエラトンの会員カードを貸してくれたのです。確

かに割安で特典も多かったのですが、滞在中ずっと「Good Morning Mr. Ueda」 「Good Evening Mrs. Ueda」 「お味はぶっぴすか Ueda San」と、何をやってもそう呼ばれるのにはちよつと困りました。

チェックイン後、私はホテルの周囲を探索に行きました。真つ青なインド洋が広がるホテルのプライベートビーチの波打ち際を散歩します。ビーチには寝そべって日光浴をする多くの欧米人。ふと、視界の隅に何か違和感を覚える風景が飛び込んできました。

小さな折りたたみのデッキチェアに、ちよこんと座わり、海を見ている老人の姿が…。

「まさかなあ」と思い、そのまま行き過ぎぶらぶらと散歩を続けました。暫く歩き、ホテルの近くまで戻つてみると、その老人は先程とまったく同じ場所、同じ姿勢のまま、とても穏やかな表情でじつと海を見ていました。

「まさか、まさか、まさか、こんなところで」と思いながら、またもその老人の前を通り過ぎホテルに戻りました。仕事を通じ面識のある方ではありませんでしたが、麦わら帽子にサングラス、Ｔシャツに短パン、サンダル履きの私が誰なのか、先方はまったく気付いてはいないと思われました。

でも私は気付いてしまったのです。

大塚恭男先生…、オオツカヤスオセンセイ…。

漢方医学の大家、北里大学東洋医学総合研究所初代所長、大塚敬節先生のご長男。北里大学東洋医学総合研究所第三代所長。日本東洋医学会会長、日本医史学会総会会長、第9回和漢医薬学会会頭、第4回国際アジア伝統医学大会会頭を務められた大塚恭男先生…。インドネシアのビーチで小さな椅子にちよこんと座られ、インド洋を見つめていたのは他ならぬ、大塚恭男先生でした。『いやあ、驚いた』とホテルに戻り、中庭を歩いていると向こうから大きな笑い声が。

渡辺賢治先生…、ワタナベケンジセンセイ…。

当時、慶應義塾大学医学部漢方医学センター長、慶應義塾大学環境情報学部教授、医学部兼任教授、現在修琴堂大塚医院院長の渡辺賢治先生が奥様の渡辺紀子先生とお子様たちを連れて歩いてこられます。私たち夫婦共々、慶応大学の漢方外来で診療していただき、大変お世話になった先生です。渡辺先生は大塚先生の娘婿でいらっしやるので、ご家族ご一行様で来られていれば大塚恭男先生と一緒に不思議はありません。



前列 渡辺賢治先生、紀子先生ご家族、後列右 大塚恭男先生

追記：この写真の掲載許諾を渡辺賢治先生にお願いしたところ、許諾書と一緒に自筆で書かれた大変丁寧なお手紙と、最近先生が出版された3冊の書籍を送って下さいました。全国から難治疾患の患者さんの集まる修琴堂大塚医院と、慶應義塾大学病院での外来診療。さらに最近では新型コロナウイルス感染症、新型コロナウイルス感染症後遺症の患者さんも診療され、大変お忙しいことは存じ上げていました。そんな状況であるにもかかわらず、このようなお気遣いをいただき、感謝の涙が止まりませんでした。

先生が送って下さった書籍を紹介させていただきます。

「漢方医学『同病異治』の哲学」（講談社学術文庫）

「漢方で感染症からカラダを守る！」（ブックマン社）

「未病図鑑」（ディスカバー・トゥエンティワン）

こうなると休暇とはいえ、MRの本能に火が付きます。部屋に戻りカメラを持ち出し、中庭を散策する渡辺先生ご一行を見つけ、声をおかけしました。

「渡辺先生、お世話になります。ツムラの金原です」

渡辺先生は目を丸くされています。

「おおつ、これは驚きましたね。同じホテルに泊まられているんですね。金原さんは今日来られたのですか？」

「はい、ここに3日間滞在します」

「私たちは明日の朝ここを発ち、シンガポールに向かいます」

「それは素晴らしい。せっかくだから、ご家族での写真撮りますよ」
そう言っカメラを向けました。

「金原さんも入ってください。一緒に撮りましょうよ」

ということ、左ページに掲載したのが、その時の写真です。

帰国後、この写真は担当者から渡辺先生のもとへ届けてもらいました。

その後、大塚恭男先生は2009（平成21）年3月8日にお亡くなりになりましたが、この時の海を見ていた穏やかな表情が、いつまでも忘れられません。合掌。